



●RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症は近年、夏から秋に流行がみられていたのですが、今年はRSウイルス感染症を含め、5類定点報告疾患の感染症での報告がほとんどありません(5類定点報告疾患は下記の表の疾患です)。RSウイルス感染症はRSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0~1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われてています。

◆どんな病気?

- ・症状……発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われてています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間~数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。
  - ・潜伏期間……2~8日程度(典型的には4~6日)です。
  - ・感染経路……感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。
  - ・流行期……例年冬季にピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、近年は7月頃から報告数の増加傾向が見られています。
- 感染した場合、特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。



◆予防法や対策は?

手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保つ事です。子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールや塩素系の消毒剤などでこまめに消毒するようにしましょう。重症化のリスクの高い乳幼児には、医師の判断のもと、重症化を予防するためにパリビズマブ(シナジス)という薬を使用する場合があります。

期 間		2020年 39週		2020年 40週	
		9/21~9/27		9/28~10/4 (最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	0	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	3	0.19	0	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	3	0.19	3	0.19
感染性胃腸炎	➡	28	1.75	21	1.31
水痘(みずぼうそう)	➡	3	0.19	1	0.06
手足口病	➡	2	0.13	2	0.13
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	12	0.75	13	0.81
ヘルパンギーナ	➡	7	0.44	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	4	0.25
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	0	0.00	6	1.20
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00